



【第17回】2024年1月公開

江戸時代から続いている。さあ「隅田川七福神めぐり」に出かけましょう！

新年明けましておめでとうございます。今年・2024年は、うるう年（2月が29日まである）。パリ五輪も開催されます。そんな1年のさんぽの手始めに「隅田川七福神めぐり」。行ったことあるよ。そんな方々も多いかもしれません。

「七福神めぐり」とは？

七福神とは、福をもたらす七体の神仏聖人のこと。それぞれを祀る社寺を巡って参拝し、開運を祈るのが「七福神めぐり」です。正月・松の内（元旦から7日）に巡拝したり、御朱印や御分体を集めたり、御分体はさらに宝船に乗せて祀ったり。そんなこだわりもあったりして、全国あちこちに見られる風習です。

七福神のメンバーとそれぞれのご利益（りやく）の例を、可愛いイラストとともにご紹介しておきます。

七福神のメンバーとそれぞれのご利益(りやく)の例	
大黒(国)神	財運福德、五穀豊穰
布袋尊	笑門来福、夫婦円満
恵比寿神	商売繁盛、五穀豊穰
寿老人(神)	長寿延命、諸病平癒
弁財天	学徳成就、諸芸上達
毘沙門天	家内安全、降魔厄除
福祿寿尊	子孫繁栄、健康長寿



▲上段の左から「大黒(国)神」、「布袋尊」、「恵比寿神」。下段の左から「寿老人(神)」、「弁財天」、「毘沙門天」、「福祿寿尊」です。

[イラスト出典]
「ナイスなイラスト」～「七福神全員のイラスト」
<https://niceillust.com>

「隅田川七福神めぐり」に出発

「隅田川七福神めぐり」に出かけるとき、アクセスマップがあると便利です。「隅田川七福会」のホームページに掲載(下記(1))され、また区内の観光スポット等で印刷物でも配布されています。



隅田川七福神 参拝のご案内

江戸文化年間に開かれた隅田川七福神は、七福神めぐりの始まりとして長いあいだ善男善女のお正月の楽しみとなってきました。昨今、隅田川七福神をご参拝になれる皆様から、よくいただく質問を整理いたしました。ご参考にさせていただきます。楽しく隅田川七福神をご参拝いただけますようお願いしております。

お参りの方法は？

元日から七年（二月七日）をご開帳としております。ご開帳以降、ご参拝のお印としては記念スタンプをご利用ください。江戸から伝わる参拝方法は、各寺社で神様のご分体をお請けし、お集めになったご分体を宝舟にお乗せしてお祀りください。宝舟は、三囲神社が多聞寺でお請け下さい。神様の並ぶ方に定めたはごさいませんが、ご信心やお願いをかける神様を先頭に、背の低い神様を前とする方が多いようです。宝舟をお祀りされる場所は、神棚や仏壇をはじめ、福を招くことから、店先や玄関等、人形ケースに飾る方もいらつしやいます。いずれにしても軸先を家の中心に向け、たくさんのおしるせを家内へお招きください。

Q ご朱印って？

A ご参拝のお印としてご開帳の間、ご朱印帳や色紙に各寺社で七福神の御神号・御朱印をいただけます。コロナ禍への対応で、ご朱印帳への記載を「書き置き」とさせていただきます。色紙へ書き置きの場合は、必ずお名前をお記しく下さい。書き置き用紙は、多聞寺・三囲神社でお分けしております。
 (ご朱印など隅田川七福神のご奉仕は、概ね午前九時〜午後五時頃まで。早朝や夜は参拝はご遠慮ください。百花園の開園時間は、午前九時〜午後五時までです。ご注意ください。)

Q 隅田川七福会

A 隅田川七福会

昆沙門天(多聞寺)
 本尊の昆沙門天は弘法大師の作と伝えられる。昔、樹人達はその村の本堂の門下の神に悩まされた。それを昆沙門天という伝説がたつた。この神は、お客を案内する千客万来、商売繁盛の神とされている。

寿老神(白鬚神社)
 祭神の白鬚神は、お客を案内する千客万来、商売繁盛の神とされている。昔、樹人達はその村の本堂の門下の神に悩まされた。それを昆沙門天という伝説がたつた。この神は、お客を案内する千客万来、商売繁盛の神とされている。

福祿寿尊(百花園)
 文化元年(一八〇四)年に開かれた百花園に、祭神の福祿寿尊が祀られた。福祿寿尊は、お客を案内する千客万来、商売繁盛の神とされている。昔、樹人達はその村の本堂の門下の神に悩まされた。それを昆沙門天という伝説がたつた。この神は、お客を案内する千客万来、商売繁盛の神とされている。

弁財天(長命寺)
 三井寺の弁財天は、お客を案内する千客万来、商売繁盛の神とされている。昔、樹人達はその村の本堂の門下の神に悩まされた。それを昆沙門天という伝説がたつた。この神は、お客を案内する千客万来、商売繁盛の神とされている。

布袋尊(弘福寺)
 弘福寺の布袋尊は、お客を案内する千客万来、商売繁盛の神とされている。昔、樹人達はその村の本堂の門下の神に悩まされた。それを昆沙門天という伝説がたつた。この神は、お客を案内する千客万来、商売繁盛の神とされている。

大國神
 大國神は、お客を案内する千客万来、商売繁盛の神とされている。昔、樹人達はその村の本堂の門下の神に悩まされた。それを昆沙門天という伝説がたつた。この神は、お客を案内する千客万来、商売繁盛の神とされている。

恵比寿神(三囲神社)
 三井寺の恵比寿神は、お客を案内する千客万来、商売繁盛の神とされている。昔、樹人達はその村の本堂の門下の神に悩まされた。それを昆沙門天という伝説がたつた。この神は、お客を案内する千客万来、商売繁盛の神とされている。

▲マップの表面(上)と裏面(下)。墨田区の登録無形民俗文化財で、江戸時代の文化年間(1804年~1818年)に始まったようです。隅田川の下流側「三囲神社」から上流側「多聞寺」の間の6社寺を巡ることになります。(三囲神社には、2神が祀られています)

「昔は、海から宝舟が上るといことで、川下の三囲神社から川上へとさかのぼってお参りする方が多かったようですが、現在では、交通の便から多聞寺からスタートする方も多くなっています」。

~隅田川七福会のホームページ・下記(2)では、このように解説されています。

今日は、多聞寺からスタートしましょう。行程は約4km。回るスポットが多いので、各所ではポイントを絞ってご案内をいたします！

[出典・参考資料]

- (1) 「隅田川七福会」ホームページ～「巡拝コース・交通機関」
<https://www.sumidagawashichifukujin.com/blank-2>
- (2) 「隅田川七福会」ホームページ～「参拝Q&A」～「三囲神社と多聞寺のどちらからスタートしたら良いのでしょうか？」
<https://www.sumidagawashichifukujin.com/blank-13>

まずは「多聞寺」と「白鬚神社」へ

まずは「多聞寺」から。この連載【第11回】でも訪れていまして、「すみだで1番」がダブル。墨田区で一番北側にあるお寺で、山門は墨田区で一番古い建造物でしたね。



▲本尊の毘沙門天像は、弘法大師の作といわれています。武門の神でもあり、戦国武将・上杉謙信は旗印を「毘」の文字にしていました。

墨堤通りを南西に進むと、次のスポット「白鬚神社」に到着しました。こちらも【第15回】で立ち寄ったばかりです。951年創設で、墨田区内では牛島神社と並ぶ屈指の歴史を持つところでした。こちらの白「鬚」神社とは別に、墨田区内に2社ある白「髭」神社も【第16回】で巡りました。



▲祭祀されている猿田彦命（さるたひこのみこと）は、古代神話の天孫降臨の際に道案内をした神です。そこから、お客を案内してくれて千客万来・商売繁盛を願う信仰につながりました。

隅田川七福神では寿老神のスポットとなっていますが、「寿老人」はもともと中国の道教の神。猿田彦命とは違うような…。そのワケは、この後でご説明します。

「百花園」でひと休み

白鬚神社からちょっと歩くと「向島百花園」に到着します。こちらは社寺ではありませんが、実は隅田川七福神（めぐり）の発祥の地です。

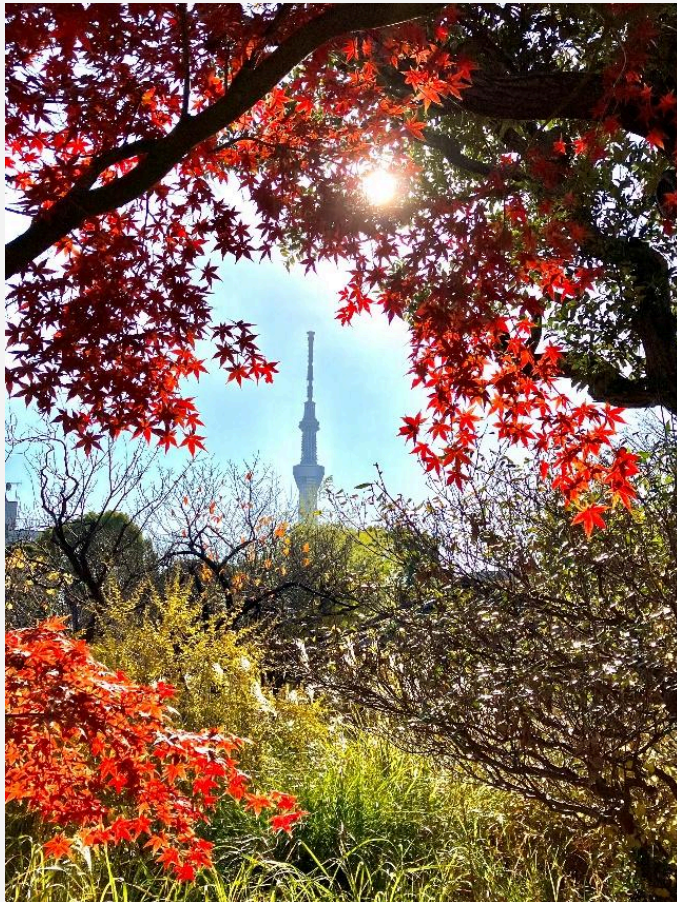


▲入ってすぐの庭門の傍らには、福祿寿尊の碑が建てられています。

四季折々の草花が楽しめる風流なスポットとして有名ですね。今は都立施設となっていますが、もともとは、骨董商で財をなした文化人・佐原鞠塙（さはら きくう）が1804年に開設した庭園です。

骨董商時代から多くの文化人（文人墨客）となじみのあった鞠塙。もともと梅の木をたくさん植えていて、交流のあった大名家の次男で画家の酒井抱一（さかい ほういつ）の言葉「梅は百花に魁（さきが）けて咲く」から「百花園」と名付け、その後いろいろな樹木や草花を増やしたようです。

百花園には、文化人仲間達がサロンのように集いましたが、鞠塙が愛蔵していた陶製の福祿寿尊像に着目。ほかの七福神も周辺の社寺に祀られていることから、隅田川七福神めぐりが始まったようです。「寿老人」だけ社寺が思いつかず、容姿風体が似ている猿田彦命（白鬚神社の祭神）を最後に当てはめたので、こちらでは「寿老神」。そんなエピソードが先ほどのアクセスマップなどにも紹介されています。



▲園内の樹木越しに東京スカイツリーが見えます。（暖冬化のせいかな）季節感がややズれてしまいましたが、なかなかの紅葉でした（撮影時期12月上旬）。

ここで、ひと休みしましょう。園内の売店「茶亭さはら」にお邪魔しました。



▲シンプルな建物です。店名の通り、佐原鞠場の子孫の方（八代目）が営んでいるそうです。



▲緑茶セット（落雁付き、400円）。「百花園」と刻まれた落雁は何と、八代目が手作りしているのだそうです。

墨堤添いの2スポットへ
次に向かったのは「長命寺」です。

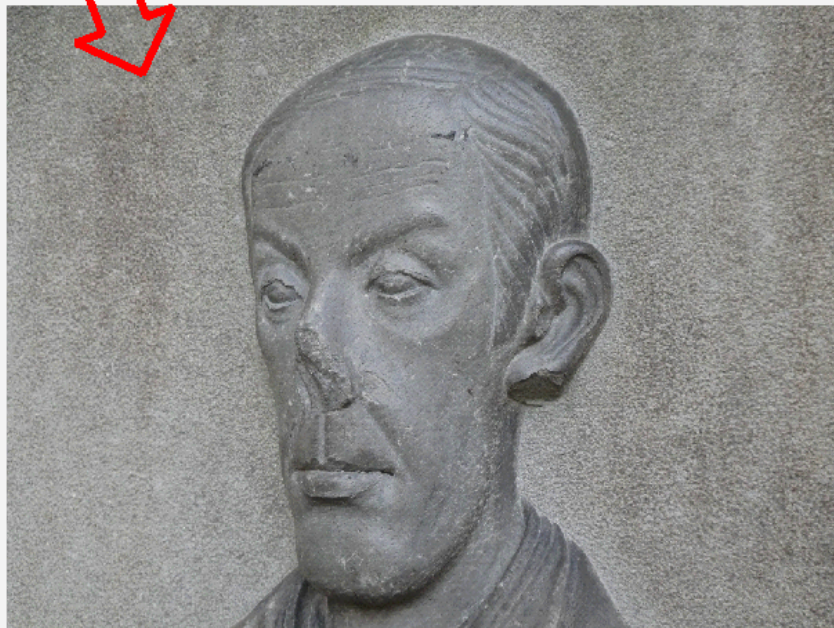


▲徳川三代将軍家光が鷹狩りに来た際、急な腹痛に見舞われます。寺の井戸水で薬を服用したところ、たちどころに回復。井戸に「長命水」の名を与えたことから、寺名も改称されたようです。

「長命寺桜もち」のほうについつい目がいてしまいがち（笑）ですが、「長命」の由来を再認識しました。水辺の神である弁財天（七福神の紅一点）がいらっしゃることに合点がいきますね。境内の一角には、成島柳北の功績と半身像を刻んだ石碑があります。



近くで見ると、鼻の先が欠けていることがはっきりと分かります



▲旧幕府の重臣だった柳北。明治維新後は新政府に仕えることなく、民権派のジャーナリストや実業家として活躍しました。この碑は柳北が没した翌年・1885年に建てられていますが、いつしか鼻の先の部分が欠けています。

永井荷風さんは、柳北を敬愛。随筆風の作品『隠居のこごと』の中で「成島柳北の紀行随筆の類は余が青年の頃より今に至るも読んで猶飽かざるものなり」と絶賛。少し先ではこの石碑について、「十年前に余の見たりし時既に其鼻のかけてありし程なれば今はいかゞなりしや」と言及しています。

荷風さんが見たのは1913年頃。110年もの時を経て、鼻の欠け具合を同じ目線で見ているのだと思うと、感慨もひとしおでした。

長命寺に隣接するのが弘福寺。黄檗宗の寺院で、なかなか凝った外観です。



瓦屋根の先端部の丸いところのすべてに、「弘」と「福」の字が交互に刻まれています



▲抜粋して拡大したところだけではなく、本堂や山門で瓦屋根の先端部が全部こうなっています。かなり見事です！

こちらの七福神は布袋尊で、七福神の中で唯一実在した中国唐時代の禅僧です。山門を入れて右側には小さな祠があり「咳の爺婆尊」の石像が祀られています。



▲寺務受付では、咳の爺婆尊にちなんだ「せき止飴」（300円）をわけてくれます。

ゴールは三囲神社

少し歩くと、いよいよゴールの三囲（みめぐり）神社に到着しました。三井家が江戸時代に日本橋に進出して「越後屋」（現・三越日本橋本店）を開業して以来の守護神といわれています。日本橋から見て鬼門（東北）の方角を守り、また「囲」の字が「井」をかこっていて三囲が三井を守っている。そんなことにちなんでいるようです。



▲大國神と恵比寿神は、境内の本殿に向かって左側の社に。もともと、越後屋に祀られていたと伝えられています。



▲境内の奥には、三柱鳥居が。珍しい形状（全方位から拝める）で、三井邸にあったものようです。



▲境内の動物像たち。左側のライオン像は、三越池袋店（2009年閉店）の店頭にあったものを移設。右端の狐像は1800年代初頭に奉納されたもの。狐像は目が吊り上がって怖い表情のものが多いですが、こちらは近くで見ると優しくな目でとても温和なお顔。「三囲のコンコンさん」として親しまれています。

さんぽの仕上げは、洋食店で

今日は、たくさん歩いてお腹もペコペコです。向かったのは、三囲神社から少し歩き「桜橋通り」を越えた辺り。住宅街の一角にポツンとあったのは「洋食 あきら」でした。



▲地味めながら歴史を感じさせる外観。前の通り沿いに、ほかの飲食店は見当たらない。そんな静かな立地です。



▲店内も落ち着いた雰囲気、テーブル席とカウンター席には、ゆったりした椅子が置かれています。夕刻からの居酒屋的な利用にも対応できる。そんなメニューやお酒も揃えられています。

たくさん歩いたので、喉もカラカラ！まずは瓶ビール（650円）を。そして、おつまみ的な品をオーダーしました。



▲ちくわのポテトはさみ揚げ（左側、300円）とホタテのポンズ風味（右側、450円）。定番のメニュー表とは別の「酒の友」メニュー掲示板にあった品でした。



▲こちらも「酒の友」メニューのねぎオムレツ（450円）。プレーンなオムレツよりもねぎの風味と塩味が効いていて、ビールが進みます！



▲次のお酒は、グラスワイン・赤（450円）にしました。



▲シメの食事は、ハンバーグステーキ（玉子付き、850円）に。付け合わせの野菜3種（写真上部）のうち、左端はダイコンの煮物です。レストランではなく、あくまでも“洋食屋さん、なのだ。そんな嬉しい気持ちにしてくれます。ハンバーグも、ほどよい大きさでした。

ご店主の野口さんは、帝国ホテル出身シェフのもと信濃町で修行。この店を開くとき店名をどうするか迷いましたが、ストレートにご自分の名をつけたそうです。創業は1978年。45年以上も地元で親しまれてきました。

今日のさんぽを振り返って

今日は、たくさんのスポットをかなり駆け足で巡りました。隅田川七福神のご開帳、御朱印や御分体集めは、1月の1日から7日の期間限定となっています。でも、この時期に必ずしもこだわらない訪れ方もあるでしょう。また、全部一気に巡るのではなく、季節の変化を感じながら折々に訪れるのもありでしょうね。

いずれにしても、こうした“お決まり”の巡り先があると、すみだの歴史やそれぞれの社寺のことを改めて深く理解できる。そんなよい機会になるかもしれません。では、皆さんまたお会いしましょう…。



【お店情報】

※営業時間・定休日は変更となる場合あり。来店前に電話等で確認してください。

茶亭さはら

東京都墨田区東向島3-18-3 向島百花園内

TEL：03-3619-4997

営業時間：10:00～16:30（向島百花園の最終入園時間16:30、閉園時間17:00）

定休日：12月29日～12月31日（向島百花園休園日）

洋食 あきら

東京都墨田区向島4-5-7金子ビル1F

TEL：03-3625-9481

営業時間：11:30～14:00（LO）17:00～21:00（LO）

定休日：火曜（祝日の場合は翌日）

【参考】（ ）内は、祀られている七福神

多聞寺（毘沙門天）

東京都墨田区墨田5-31-13

白鬚神社（寿老神）

東京都墨田区東向島3-5-2

向島百花園（福祿寿尊）

東京都墨田区東向島3-18-3

長命寺（弁財天）

東京都墨田区向島5-4-4

弘福寺（布袋尊）

東京都墨田区向島5-3-2

三囲神社（大国神・恵比寿神）

東京都墨田区向島2-5-17